

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。
ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第38号

2010年 10月21日
編集責任者 元木計文
047-355-8526
部内資料

今こそ「住民の立場を貫く」市政を！



必要ではないでしょうか。
公営住宅の整備基準や道路構造の技術基準も自治体条例にゆだねる、中小企業支援など自治体が策定する計画に対する国との協議も廃止するなど、自治体が「自主・自立」して担うよう求めています。

その一つは、保育所や介護施設などの質を確保するために国が定めている施設基準について、自治体任せにする方向です。保育所の園庭や避難経路・防災カーテンの使用など建築基準法に上乘せられた耐火基準を撤廃。保育士の配置や居室面積基準を自治体にゆだねるとしていること。しかし、これらは今でも諸外国と比べ劣悪で、グループホームの火災などで犠牲者が耐えないのが実態です。国は国民に保障すべき基準を引き上げた上で、財政責任を果たすことこそ必要ではないでしょうか。

昨年総選挙で、国民は自公政権の構造改革路線のノーの審判を下しましたが、今また構造改革路線へ逆戻りする動きが強まっています。民主党政府が「地域主権」と称して地方自治と行政サービスを拡充するかのように見せつけながら、国の責任を投げ捨て、公共サービスを後退させかねない動きです。

市民の防波堤

一方で重大な点は、首長と議会のあり方について、「長と議会の対立」で行政運営に支障が生ずることがないようにすることとして「議員が副市長など執行機関に入る」ことを提案していること。自治体は、首長と議会がそれぞれ住民に直接投票で選挙される「二元代表制」が憲法で定められ、互いに牽制し、執行機関の暴走を議会がチェックする役割が明確にされています。現在でも強大な執行権限を持つ首長に対して、議会、議員の役割が縮小することになりかねません。

このような国政のもとで、浦安市では市長選挙が、来年春には県議・市議選挙が行われます。国の悪政を持ち込む役割を果たすのではなく「防波堤」になり、住民の立場を貫く自治体と議員が求められています。



日本共産党・第40回 (11月6日～7日)

赤旗まつり

★前売り券発売中！



民主・管政権が混迷を極める中、未来の日本を展望する赤旗まつりが、4年振りに行われます。「政治」も「音楽」も両方楽しめるプログラム・記念演説会など盛り沢山です。また、お楽しみの全国の名産品が一堂に並ぶ物産模擬店も、みなさんをお待ちしていますよ！

浦安後援会では、11月7日(日)に市川・浦安地区の広場に集まります。希望がわく、政治がわかる、赤旗まつりに、是非お知り合いの方・ご家族の方と一緒にご参加下さい。

- 日時 11月7日(日) 午前11時より
- 場所 新木場「夢の島公園」
*JR京葉線・新木場駅から徒歩5分
- 前売り券(割引券)(2日間有効)発売中
一般:2,300円、中・高・学生・70歳以上:1,500円
*障害者、小学生以下は無料です。
- 連絡先 元木 355-8526
*参加できる方は事前にお知らせ下さい。

私（男性）の介護体験 第6回

美浜四丁目 伊那三郎

4-3. これまで私達が工夫してきた事（続き2）

○首下がり対策

“首下がり”とは、車椅子等に座っていると、首を支える筋肉が硬直し、左右の筋肉の硬直程度の差により、首が左右のどちらかに斜め前方に傾き、首が激しく痛む現象で、そのままでは30分もいると腰も痛くなり、座っていただけなくなります。車椅子生活になった初期の頃（3年半ほど前）、妻の外出や旅行が困難になった最大の原因は、この首下がりと体が一方方向に傾く事による耐えがたい痛みでした。どういう訳か、自家用車の椅子には長く座って居られるようでした。

担当医は、筋弛緩のためにボツリヌス菌の毒素を首の筋肉に注射するという処置をしてくれましたが、効果はそれほどありませんでした。さらに誤嚥の症状が出てきていたので、誤嚥を促進する筋弛緩の注射も中止せざるを得ませんでした。「寝ているしかない」と言うのが担当医の首下がりに対する唯一の残された対処方法のようでした。

週一回、リハビリのために訪問してくれていた理学療法士の助言で、頸椎を損傷した時に使用されるカラーや固定具（図1）を使用してみました。これが予想以上に有効でした。



【図1】

これら補助具のおかげで、妻を車椅子に乗せたままで2時間ぐらい買い物ができるようになりました。補助具の欠点は、首回りや胴回りをプラスチックの部品で覆うため、夏など暑い時に蒸れてどうしようもない事です。妻は、自律神経のコントロールも上手にできなくなり、体温も大きく上昇する事があります。冷却剤を同時に使う手があるかも知れませんが、未だ試していません。これら補助具を利用し始めてから数ヶ月から1年経った頃には、これらの固定具を利用しなくとも車椅子に長く座ってられるようになっていました。その原因が、首の筋肉の硬直に対する慣れによるものか、症状自体の変化によるのかは不明です。



いずれにせよ、最初からこれら補助具が首下がりに対して有効である事が分かっていたら、妻との最後の海外旅行の機会を逃す事はなかったのではないかと悔やまれます。現在は別の理由（経管栄養）で旅行はほとんどできない状態ですが。

担当医のみではなく、多くの専門の異なる人に相談するのが、問題解決の良い方法だと思われま。我々の場合は、理学療法士の助言が役に立ったわけですが、浦安に来てケアマネに聞いたところ、浦安では対応する病院が少なく、理学療法士による訪問リハビリは難しいとのことでした。そこで、浦安では訪問マッサージを利用しています。訪問理学療法士と訪問マッサージ師の利用は、介護保険によるのではなく、医療保険を使うことになります。やはり医療保険対応の訪問看護もケアマネが対応してくれます。

その後、三階、八階にある赤旗編集局を案内してもらいましたが、休日の午前の時間帯なので、通常の活気溢れる編集局ではなく平穩そのものでした。出勤されている各担当の方からそれぞれの仕事内容の説明を受け、あらためて紙面づくりの大変さを感じました。



【頼もしい輪転機】

九月三日秋分の日、雨模様の中、総勢九名で代々木にある日本共産党の本部ビルとあかつき印刷の見学に出かけました。最初に、隣のASビルにあるあかつき印刷の地下二階の印刷所を案内してもらいました。当日は祭日なので輪転機は動いていないのかと思っていたら、丁度、日曜版を印刷しているところでした。真近に見る輪転機は、高速回転する頼もしいヤツでした。

日本共産党本部ビル・あかつき印刷見学会



【党本部ビル】

その後、党本部ビルに戻り、五百名を収容できる大会議室、多目的ホール、十三万冊の蔵書をもつ資料室などを案内してもらいました。ヒートアイランド対策として設けられた屋上の植栽には心が和む思いでした。最後は、一度に百五十人が食事できる食堂ホールで、私たちも職員の人たちと同じメニューと料金で昼食を頂きました。なんと、すぐ後ろに志位委員長と小池政策委員長が並んで食事をしていました。ごく普通のオジサンという印象でした。

（松木）



【大会議室にて参加者一同】